Arachnidaの和名に関する放談

小野 展嗣（国立科博／九大・地球社会）

　Class Arachnidaに対する和名（綱名）として、現今の分類学の解説書あるいは生物学の辞典のような比較的影響力の大きい出版物上で「蜘蛛綱」「クモ綱」「蛛形綱」「クモ形綱」「クモガタ綱」（いずれも〜類としたものを含む）の５通りの名前が使用されている。このように多様な呼び名があるにもかかわらず、研究者の間でそれほど混乱が起こらないのは、研究の現場や論文上では英語が使用されるからである。しかし、一般、とくに教育の現場ではこの多様性はあまり歓迎されないだろう。そこで、そもそもなぜこのように多様な呼び名があるのか、言葉の変遷を辿ってみたところ、岸上鎌吉（1889）が「蜘蛛類」としたのが最初のようである。また、「蛛形」類は岸田久吉（1927）の造語、「クモガタ」類は八木沼健夫（1960）の造語ではないか、ということがわかった。学名に関しては国際動物命名規約というルールがあるが、和名には歴史的な言い習わしやいわゆる公序良俗といった社会規範以外には基準になる概念はないので、どの言葉を使ってもかまわないのであるが、それぞれの言葉のもつ特性やそれに込められた思いなどを探ってみた。